

新年にあたって

会員の皆様、明けましておめでとうございます。旧年中は、皆様方の一方ならぬご協力によりまして、当工業会は順調に推移してまいりました。心から厚くお礼申し上げます。

さて本年は、総選挙が終わり、政治の安定が一段と計られ、経済の活性化が進むものと期待されております。産業界にとっては喜ばしいスタートが切れるのではないかと考えておるところでございます。

その中で、本年はまず第1に、昨年何回となく環境省、経済産業省と折衝してまいりました容器リサイクル法のケミカル利用に対するRPFの適用につきまして、一部来年度分より可能性がでてまいりました。この一点突破に向けて、今年も全力を傾注してまいり前進をさせていきたいと考えております。容器物のRPF利用が一部でも認められれば、RPF製造メーカーにとって、原料調達上、大きなメリットが得られるばかりでなく、社会的評価も大きく変わるものと考えております。

第2は、原油、LNG、石炭等の燃料原料の価格低下があります。原油は、WTI価格で40%以上も値下がり、石炭もつれ安に動いております。これは、RPFの燃料コストとしてのメリットを下げる結果を招きかねません。その点からもRPFの品質アップを計り、継続的に需要家様のランニングコストを下げる必要があります。業界挙げて、品質の向上と安定的な供給に力を入れていき、需要家様のご要望に応える事が何より大切だと考えており、これら品質向上に対する情報を技術委員会を中心に的確に提供してまいりたいと考えております。

第3に、新しい需要先の開拓でございます。

会長 加藤 信孝



それはCO₂削減、カーボンオフセット用クレジット(J-VER)を推進する需要家様への啓蒙を推進しRPF利用のメリットを業界として提案することです。

この推進には、一般紙、業界紙等のメディアやインターネット、環境展等を通じて情報の発信を行い、RPF利用の推進を計る事を総務委員会が中心となり力を入れて行きたいと考えております。

最後に業界内部の問題として最も大事な安全、防災の推進でございます。皆様も日常の製造過程におきまして細心の注意を払って対応されている事と思います。しかしながら、この業界は極めて火災の発生率が高く、事業推進に大きな問題となっています。技術委員会を通じて火災予防の技術情報の交換や工場見学、新しい設備情報の提供等を行い安心安全な事業運営にお役に立ちたいと考えております。

以上、本年の重点推進事業項目を申し上げましたが、いずれにしても会員皆様方のご協力がなくては一つも推進できません。

業界が良くなる事は、必ず各社に直接的にも、間接的にも各社の事業推進環境が良くなる事をご理解頂き、社団法人 日本RPF工業会事業に、一層のご協力を頂きますよう心よりお願い申し上げます。新年にあたり一言ご挨拶申し上げます。ありがとうございます。

技術品質部会の活動について

技術品質部会委員長

海田 周治

明けましておめでとうございます。

今年度は政権の安定化に伴い、景気の刺激策として設備投資にかかわる助成金、税制の優遇策などが実行されます。日本RPF工業会としましても各社がこういった制度を積極的に利用することにより体質の強化が図れるのではないのでしょうか。

技術品質部会は、塩素対策、メンテナンス、節電の三つのワーキンググループから構成されています。そして去年は、工場見学を(株)レックス、特種東海製紙(株)のご協力のもと実施することができ、RPFの製造、需要それぞれの立場の問題点を学ぶことができました。

(株)レックスの皆様は工場見学を5S達成の良い機会として捉えて頂き、見学時の工場は整理整頓が行き届いていました。品質面では、蛍光エックス線分析機により定期的に塩素分の分析を行い、規定値より塩素分が連続してオーバーすれば、社内の品質管理責任者が廃棄物の排出事業者と一緒に問題解決の場を持つ仕組みを作っていました。また、RPFの製品ヤードでは画像による連続の温度管理を行っていました。そして、連絡のあいまいさを防ぐため作業員全員がレシーバーを耳に装着し、全員即時に連絡がとれるようになっていました。

また、特種東海製紙(株)の需要サイドとしてRPFに求めることは、安定した発熱量、安定した形状、塩素などの低融点物質が少ないことの三点を挙げられていました。それを守ることで、ボイラー負荷の安定化、供給設備の詰まり防止、過熱機の溶融塩腐食防止が図れるとのことでした。

工場見学会を通じ、会員同士の交流と知見を深めることがより一層の事業の発展と工業会が充実したものになるよう祈念いたします。

工場見学会の様子



勉強会の様子



1) 容器包装リサイクル法の改正に伴う中央環境審議会へのオブザーバーとして参加

平成25年9月開始当初より参加している経済産業省と環境省主催の「産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会容器包装リサイクルワーキンググループおよび中央環境審議会循環型社会部会容器包装の3R推進に関する小委員会の合同会合」の第6回会合において、工業会として初めてヒアリングに参加させて頂くことが出来ました。

そこで、RPFの燃料化手法の早期実施に関する提言や、付加条件（緊急避難的・補完的）の撤廃など要望を述べ資料を提出しましたが、残念ながら、現状の状況が大きく変更されることはなく、材料リサイクルの優先枠を残した状態になると思われれます。

2) 一般社団法人 日本低炭素機構の件

一般社団法人日本低炭素機構 (<http://japan-lowcarbon.or.jp/>) は、小型ボイラーの開発を行っており、全国的に販売を予定している企業です。

このたび、先方からの積極的なアプローチにより、工業会へRPFの供給依頼がありましたので、これを理事会にて検討し、供給を全面的にバックアップすることに致しました。

利点としては、この日本低炭素機構の小型ボイラーは、カロリーが低く高塩素のRPFが使用可能であることから、C品の需要先として期待ができます。

納入時期等は未定ですが、納入単位が小ロットになるため、地区ごとに順次お願いしていきたいと考えております。

3) 一般財団法人 エネルギー総合工学研究所の件

平成 26 年 12 月 16 日付の日刊工業新聞に、エネルギー総合工学研究所と中国電力との共同で、RPFを使用するボイラーを火力発電所に組み込んで、化石燃料を削減する研究を始めたとの発表が掲載されております。

このプロジェクトの調査段階において、エネルギー総合工学研究所の方が工業会を来訪され、技術的な質問、供給状態、実現の有無等のご相談を受け、お答え致しました。

このプロジェクトには、今後も工業会として協力して参ります。

4) サーマルリサイクル以外へのRPF利用について

平成 26 年 12 月 17 日付けの日本経済新聞に、廃プラスチックを主原料とする再生燃料としてRPFの写真が掲載されたことは記憶に新しいと思いますが、最近では石炭・コークスの代替燃料としてだけでなく、鉄鋼メーカーのフォーミング剤や電炉メーカーのカーボン源としての利用も行なわれてきております。

それらの工場がお近くにある場合は、アプローチされてはいかがでしょうか。

5) 事業ごみ減量ニュースレター「ごみゆにけーしょん」第18号掲載の件

京都市環境政策局発行の「ごみゆにけーしょん」のコラム記事内にて、廃プラスチックのリサイクル方法としてRPFを掲載し、説明文に当会HP内の文章を借用したい旨、連絡があり、これを了承しました。

RPFの簡潔な説明が、かわいいイラストと共に掲載されています。

発行日は12月16日。発行部数は32,000部。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000171/171032/vol18.pdf>

(上記2ページ目の上部)

6) プラスチック循環利用協会主導の工場訪問調査の件

プラスチック循環利用協会主導のRPF工場調査訪問の依頼があり、これを受諾しました。

この調査は、日本に於けるRPF用廃プラスチックの実態把握に関するものであり、毎年、プラスチック循環利用協会が発表している「プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況」中のマテリアルフロー算定の精度アップのための調査であります。

先方より指名があった数社にご連絡し、関東地方3社と東海地方1社にご承諾いただき実施する運びとなりました。調査は、12月と1月に実施されます。今後の実施につきましても、工業会として協力して参る所存でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年の干支は乙未（きのとひつじ）です。東洋思想家によれば、未は「木（幹）」と「一（枝葉）」の合成漢字で、上層にある「一（枝葉）」が繁茂すると下が暗くなり、幹の成長を阻害することになるという意味です。要は阻害要因をそのままにし、状態を昧（くら）くしてはならない、曖昧にしてはいけないということで、物事を不昧に持つてくことを心がけ、公明正大に事を行うことを追求していくべき年ということ。昨年は嘘ばかりがはびこる世の中でしたが、今年は繁茂した枝葉末節を払落し、生々たる生命が進展する年としたいものです。会員の皆様の本年のご多幸とますますのご発展を祈念いたします。

(会報編集担当社)

